

卒業論文・修士論文・博士論文題目一覧

2008年3月

卒業論文

2008年

- | | |
|-------|---|
| 岡部 遊志 | フランスにおける地方分権と国土整備政策の変容 |
| 小名木萌子 | サイトウ・キネン・フェスティバル松本の地域への受容と定着 |
| 金谷 亜美 | 地方都市の中心市街地における空間利用のあり方
—秋田市中通一丁目地区再開発事業を事例として— |
| 中尾 亮太 | 企業からみた農業参入制度 |

修士論文

2008年

- | | |
|-------|---|
| 府中 裕紀 | 地方都市における都市祝祭の存立基盤
—青森ねぶた祭・秋田竿燈まつりを事例として— |
| 星川 真樹 | ゴーヤー出荷体制にみるフードシステムの変容への生産側の対応
—沖縄県糸満市を事例に— |
| 村井 昂志 | 東京大都市圏における公立小中学校の廃校跡地利活用 |

博士論文

2008年

- | | |
|------|------------------------------|
| 中村 努 | 医療供給体制における情報化の受容過程に関する地理学的研究 |
|------|------------------------------|

あとがき

東京大学人文地理学研究 第19号をお届けする。本号は、1999年に本誌が現在の形で発行されるようになってから7号目にあたる。前号発行以来1年半ということもあって、この間、人文地理学関係の教育・研究体制は大きくは変わっていない。教養学部前期課程（教養教育）では、人文地理学会として、学部1・2年生を対象に人間生態学・地域生態学・社会環境論等の科目を開講している。後期課程（専門教育）では、広域科学科人文地理分科として3・4年生の専門教育にあたっている、また大学院では総合文化研究科広域科学専攻広域システム科学系に所属している。前期課程人文地理学会、後期課程人文地理分科、および大学院の人文地理学分野の構成教官は同一であり、東京大学における人文地理学関係の教育・研究を一元的に担う「人文地理学教室」として活動している。

学校の常として、学生院生には学窓を去る者、新たに加わる者がいるが、教室の陣容そのものには大きな変化はない。小職の他、松原 宏教授、永田淳

嗣准教授、梶田 真准教授、新井祥穂助教のティーチングスタッフに加えて、教室事務・渋谷桂子氏と図書管理・川村素生氏で運営に当たっている。その他、ティーチングアシスタント、IT機器管理、図書選定などの業務を院生に分担してもらっている。特に、教室ウェブサイトは、昨年春に全面更新を行い、デザインを一新するとともに、内容の充実を図った。是非ご覧いただきたい (<http://www.humgeo.c.u-tokyo.ac.jp/>)。

教養学部では、昨年来、後期課程再編の構想づくりが進んでいる。事態はなお流動的であるが、現スタッフ一同は、そうした動きの中で、これまで教室が培ってきた教育・研究の蓄積を踏まえつつ、時代の流れにも大胆に対応できる体制を整え、駒場に東京大学における地理学教育の拠点を築きたいと考えている。今後とも引き続きご指導・ご鞭撻を賜るようお願い申し上げます次第である。なお、本号の編集実務は新井助教が担当し、大学院修士課程の岡部遊志君に協力いただいた。

2009年 早春

荒井 良雄